

テレロボ学校生活参加

学校に設置されたテレロボにアクセスし、病室や自宅から学校生活に参加

メリット

- ・学校との繋がりを維持し、孤立させず不安を軽減
- ・病気療養のため、学校に通学することができない児童生徒も、平等な教育の機会を確保
 - ・入院中や復学後の勉強の遅れを最小限に
 - ・離れていても友達とつながれる
 - ・主体的・能動的に、授業に参加
 - ・治療へのモチベーションを高める
 - ・スムーズな復学

病室を教室に変える「テレロボ」とは？



テレロボで学校へ行こう！Telepotalk アプリの使い方



テレロボ学校生活参加とは

病気療養などの理由により、相当の期間学校を欠席せざるを得ない児童生徒が、学校に設置されたテレロボにアクセスすることにより、病室や自宅から学校生活に参加することを可能にします。自分の見たいところを遠隔操作により自由に見回すことで、友達や先生とコミュニケーションをとって学びを深めることができます。そして、休み時間にはワイワイガヤガヤとした時間を過ごすなど、まるでお友達と同じ空間にいるような感覚で学校生活を楽しむことができます。

<メリット>

- ・学校との繋がりを維持し、孤立させず不安を軽減
- ・病気療養のため、学校に通学することができない児童生徒も、平等な教育の機会を確保
- ・入院中や復学後の勉強の遅れを最小限に
- ・離れていても友達とつながれる
 - ・主体的・能動的に、授業に参加
- ・治療へのモチベーションを高める
- ・スムーズな復学

テレロボとは

テレロボとはテレプレゼンスアバターロボット（Telepresence avatar robot）の略で、**テレビ**+ロボット+遠隔操作技術を組み合わせたロボットです。遠隔操作とロボット技術を組み合わせることで、自分の今いる場所から遠く離れた所に存在（プレゼンス）させることができます。

テレロボの操作者は、スマートフォン、タブレット、PCなどで、高品質なWEB会議を行いながら、相手側に設置したロボットを遠隔でコントロールすることで、自らが主体となり、誰とコミュニケーションを取るか、どのロボットに移動するかを自由に決めることができます。

従来のWEB会議システムとは異なり、ロボットが自分の分身（アバター）として別の場所を歩き回ったり、会話をしてコミュニケーションが図ることにより、今までにない存在感や臨場感といった”まるでそこにいるかのような感覚”を、相手も自分も感じることができる、新しい形のコミュニケーションツールです。

テレロボには、学校生活の様々なシーンに参加できるよう、様々なタイプがあります。

【 卓上型 kubi (クビー) 】

kubi は、左右に 300°、上下に 90°、拡大等自由自在に稼働するロボットです。

お手持ちのタブレット端末と kubi を繋ぎ、専用のアプリやサードパーティのテレビ電話アプリを使用することで、まるで通話先の相手が目の前にいるかのような感覚を持たせてくれます。

<利用場面例>

- ・授業への参加（教室の席）
- ・お友達や先生とのワイワイガヤガヤとした時間



【 自走式 temi (テミ) 】

世界のどこからでもコミュニケーションを可能にする AI アシスタンス機能搭載の自走式テレプレゼンスアバターロボットです。

遠隔地からの操作のみならず、前の人を認識してついていったり（追従機能）、自動マッピング機能を利用して行きたい場所にワンクリックで移動が可能（地点登録機能）。障害物センサーつき。

<利用場面例>

- ・校内イベント（学園祭・運動会）
- ・校外学習・遠足
- ・式典（卒業式・入学式）

- ・ 教室間の移動



【 超小型 keigan (ケイガン) 】

スマートフォンを設置して利用できる超小型テレプレゼンスアバターロボットです。

遠隔地から左右に操作が可能。片手で持ち運び可能でワイワイガヤガヤとした時間に気軽に利用可能

<利用場面例>

- ・ 給食・お弁当など時間
- ・ 休み時間
- ・ 校外学習（マラソン、遠足など）



復学の流れ

- ① 入院前～入院（転校）まで

【コミュニケーション毎に生じる不安と不安軽減方法】

前籍校の友人

<不安>

- ・入院することについて
- ・いつ復学できるのか

→<コミュニケーションの方法>

テレロボ、個人 SNS

<不安軽減方法>

テレロボ学校生活参加や個人 SNS を通してコミュニケーションを取り、入院しても学校と繋がる。

前籍校の先生

<不安>

- ・転校することについて
- ・入院を先生がどう捉えるか

→<コミュニケーションの方法>

テレロボ、メール、管理システム、保護者から

<不安軽減方法>

テレロボ学校生活参加で授業に参加し続けられる。

【安心した復学のために】

※新1年生（3月下旬に入院した年長の子ども）

- ・早めに就学相談をする。
- ・復学を考え、担任の先生やクラスが分かって所属観を持つためまた前籍校の教科書をいただくため、4月になって入学式までは前籍校に在籍しておく。
- ・籍はないが、特別支援学校の入学式に参加。
- ・転入

※2～6年生の場合（3月下旬に入院）

- ・始業式までは前籍校に在籍
- ・始業式はテレビ視聴で参加
- ・転入

始業式の翌日から転入することで、年度変わりに転入する子どもも新年度の担任・クラスが分かって教科書も頂く。

②入院中

【コミュニケーション毎に生じる不安と不安軽減方法】

前籍校の友人

<不安>

- ・入院生活のことや今の状況についてどこまで話したら良いか
- ・学校の様子を知りたい
- ・これまでと変わらず仲良くできるか

→<コミュニケーションの方法>

テレロボ、個人SNS

<不安軽減方法>

入院生活や今の状況について詳しく話す必要はありません。

テレロボ学校生活参加で友達とのワイガヤに参加する。

前籍校の先生

<不安>

学習に遅れをとっているのではないか

→<コミュニケーションの方法>

テレロボ、メール、管理システム、保護者から

<不安軽減方法>

いつでも、前籍校とつながることで自分の現状を把握することができる。

③復学~復学後の学校生活にむけて（退院・在宅療養中）

チェックシートを使って今の不安と改善策を考える。

注意事項

【テレロボ利用中の姿勢に関して】

テレロボ操作時は頭部前屈や視線角度が過度に深くなる傾向があります。

短時間・短期間では直ちに健康影響が生じることはないと推察されますが、頸肩部に過度な負荷がかかっていることが推察され、頸部にかかる負担は通常のPC作業よりも大きい可能性があります。

また、頭部と視線の偏位は相互にリンクしていることから、筋骨格症状と眼精疲労・目の不快感などの症状の訴えとも連動する可能性があります。

そのため、テレロボ利用中には途中で休憩をいれたり、正しい姿勢で使うようにしてください。